（別紙の2）

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は誰もが目にできるところに掲げユニット会議、勉強会において自分たちのケアの振り返りを行い、統一したケアが出来るよう努めている。	理念については事務所やホールの目に付き易い所に掲示し来訪者にも解るようにし、ホームの介護に対する取り組み姿勢を明確にしている。合わせて職員で話し合い決めたユニット理念もホール内に掲示し日々の支援に取り組んでいる。ユニット会議等で支援に対する振り返りの時を持ち理念に沿った支援に取り組むよう努めている。家族に対しては理念に沿った支援について利用契約時に話している。また、職員はホームが利用者にとって住み易い場所であり、一人ひとりの利用者に対し何が出来るかを考え支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの来訪、地主さんの畑での収穫地域の方に向けた月１回の回覧板にて活動の様子の報告をし、施設内だけの生活にならないようにしている。	自治会費を納め地域の一員として活動している。開設以来、区長、民生委員の協力を頂き夏祭り等の地域行事に参加し地域の皆様との交流を深めて来たが今年は春先より「新型コロナウイルス」の影響ですべての行事の自粛状態が続いている。そのような中ではあるが月1回発行される「かたくり便り」を町内の回覧板で回していただきホームの様子を知らせている。ベランダに出て地主さんの畑を見ながら地域の人々と話したり、地域の美容師来訪したりして交流の時間を持っている。新型コロナウィルス収束後には中学生の職場体験の受け入れや各種ボランティアの受け入れを再開し地域の中での活動を行う予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議録、ボランティアさんの来所時に利用者様との触れ合いを持って頂き、職員の仕事を理解して頂く機会を持っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の際は施設の状況報告を行い頂いたアドバイス等はユニット会議、申し送り時などにおいて職員に伝え、日々のケアに活かしている。	家族代表、民生委員、取引薬局職員、市高齢福祉課職員、ホーム関係者の出席で2ヶ月に1回開催している。入居者状況、身体拘束会議や活動の報告、薬局より薬についての話、意見交換等を行いサービスの向上に繋げている。現在は新型コロナウィルスの影響で会議が開けない状況が続いているため「運営状況及び活動報告」を家族及び区長、民生委員、市高齢者福祉課に届けている。合わせて「ご意見ご要望カード」を手紙に同封し家族より意見を頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通し、市の職員さんに施設の状況を知って頂き相談できる関係作りに努めている。また、認定更新時は利用者様の暮らしを伝え連携を深めている。	必要に応じ訪庁し高齢福祉課職員とは連携を深め運営上様々な事柄について相談している。市主催の研修会には出来るだけ職員が参加し、ホーム内会議でその内容の徹底を心掛けている。介護認定更新調査は調査員がホームに来訪し、家族に連絡の上行い、利用者一人ひとりについて細かく話し、立ち会われる家族もいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	何が身体拘束にあたるのか勉強会において拘束の意識を高めている。玄関の施錠においても職員と一緒なら自由に出られるように配慮している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	利用者様の日々の状態、表情、言葉から虐待に繋がるケアがないか申し送り時、ユニット会議において話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会において制度の理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安な事や疑問点など聞きながら十分な説明をしている。分からない事はいつでも聞いて頂けるよう案内している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に匿名で記入できるご意見、ご要望箱を設けてあり、面会の際、職員に話して頂けるような関係を普段から築いている。頂いた意見は職員と共有し改善に繋げるよう努めている。	ほとんどの利用者は意思表示の出来る状況であり日々の様子を見たり居室にて1対1で話を聞き、「何を食べたいのか、何をしたいのか」等の要望を受け止めるよう心掛けている。家族の面会は新型コロナウィルスの影響で難しい状況が続いているが、「窓越し面会」が再開され事前に予約をし、週1回～月1回の面会が可能となり利用者の様子を見て頂き職員とも話をされて帰られている。また、敬老の日にはお祝いをお持ちになり来訪された家族が多くいたという。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見は管理者が窓口になりいつでも話せるようにしている。年に2回の面談、その他必要に応じて個人面談を行い意見の反映に努めている。	月1回全職員出席でユニット会議を2時間～2時間半じっくり行い、管理者からの連絡事項、カンファレンスなどで活発な意見交換が行われ、意思統一の場となっている。年2回人事考課表を用い人事考課が行われ、春は「企業理念、接遇、服装、身だしなみ、接し方」等の自己評価に合わせ管理者による個人面談が行われている。また、秋には個人面談中心に行われ、職員の思いを管理者が受け止め評価とともに支援の向上に繋げている。また、引き続き年3日、リフレッシュ休暇が取得できるようになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、人事考課面談を行い職員の意見取り組みについてアピールできる機会を設けている。又、困り事、悩み事など管理者主任にできるよう関係作りに努める		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度の勉強会、会社全体での研修を通し知識や技術の向上に努めている。外部の研修も案内し興味のある職員は参加できるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者を中心に年4回のグループホーム部会に出席し、地域の施設職員との交流を通し活動内容、問題点などの意見交換を行っている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族、入居前の生活歴等の情報を元にご本人がどのような生活を望んでいるか何か困っているかを探り、少しでも安心に繋がるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の面会時は職員からの日常の様子をいつでも伝えられるようにしている。職員に対して不安、要望を気軽に言って頂けるよう関係性に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネが入居前にご本人、ご家族と面談を行い、不安や要望を見極め職員に情報提供する。入居後のケアの中での気づきはケアマネに伝えられ必要であれば支援ができるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来る事、出来ない事の見極めをし、出来る事は一緒に行い、時には利用者様に助けて頂きながらお互いに支え合える関係を築けるように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様に変化があった時、ご家族が来所の際は利用者様の様子を伝え、ご家族の利用者様への思いを聞く機会を作るように努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外にも職場の元同僚、同級生、近所の方など馴染みのある方の訪問がある。その際にはゆっくり話ができるよう面会場所の配慮をしている	近所の方、友人の来訪がありお茶をお出しし寛いで頂いている。現在は新型コロナウィルスの影響で自粛状態が続いているがお世話になった保険会社の方が誕生日に家族と共に花のプレゼントを届けに来訪している。また、親しくされていた近所の娘さんが定期的に「窓越し面会」に来訪し利用者も涙を流し喜ばれているという。年末には職員と共に制作する利用者一人ひとりの年賀状を家族とお世話になった方にお出しし喜ばれている。更に近所の美容師が2ヶ月に1回来訪し利用者と交流している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必要に応じ職員が間に入りながら利用者同士が会話を楽しみ支え合える関係でいられるように支援をしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人、ご家族からの希望があれば対応できるように準備している		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の気持ちを第一に考え、良い反応、不快な反応を見極め希望や意向を探っている。	家族から聞いた情報も参考にしているが共に生活を送る中で新しい発見があり利用者の言葉を大切に自由に過ごしていただくよう努めている。食事については好きな物を聞き希望に沿えるよう取り組み、テイクアウトで食事を取る時にはメニューの写真を見ていただき好きな物を選んでいただいている。日々の特記事項は申し送りノートに纏め、情報を共有し支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の暮らしの情報をご家族やその時のケアマネからもらい、入居後もご家族等に聞きながら馴染みのある習慣が継続できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月に1度のユニット会議において状態に変化のあった利用者様のカンファレンスを行い現状に合った生活ができるよう全体像の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の介護記録やユニット会議において職員全体で利用者様の現状を把握し、ご家族に現状報告、今後のケアの方向性を相談している	職員は1～2名の利用者を担当し誕生日会の計画、居室管理、日々の状況把握に努めている。毎日の申し送り時に日々の状況や対応の仕方について確認し合い、ユニット会議でも意見を出し合いケアマネジャー中心にモニタリングを行い、家族の希望も電話や来訪時等に聞き、ケアマネジャーがプラン作成に当たっている。基本的には入所時短期目標3ヶ月で、状態が安定している場合は6ヶ月での見直しを行い、状態に変化が見られた時には随時の見直しを行い利用者が快適に暮らせるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には利用者様の表情、仕草、言葉を記入するように心がけ、その中で気付いた事はユニット会議においてカンファレンスを行い、新たなケアに繋げている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	すべての職員がご家族と話すことで様々な意見を聞く事ができ、ケアマネを中心にその方に応じたケアに繋がるよう努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設職員とだけの生活にならないよう職員以外の来訪者を迎え入れ、施設内で過ごした後、見送りをする姿が見られる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族が受診の付き添いをする場合は状態を説明し、必要に応じて様子を文書にして渡している。受診の様子、結果等はご家族に確認し、職員間で情報を共有している	全利用者がオンコール対応可能なホーム協力医の月1回の往診で対応している。また、毎週火曜日には訪問看護師の来訪があり利用者の健康管理に当たっている。また、利用者によっては個人契約で毎日来訪する訪問看護師がおり、連携を取っている。その他、精神科等の専門医に掛かっている方がおり、職員と家族で受診対応をしている。協力歯科の往診が月1回、歯科衛生士の来訪も月3回あり、利用者の口の健康にも配慮した支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化に繋がりそうな時は早めに訪問看護師に相談し指示を仰いでいる。その際はご家族にも報告している。夜間の急な受診にも対応できるようオンコールスタッフを設けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期に退院が出来るようケアマネが中心に面会に行き担当看護師に様子を聞き状態を把握している。退院時にはカンファレンスに参加しサマリーを基に退院後のケアの方向性を話し合っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期を迎える時にはご家族、主治医、訪問看護師、施設職員とのカンファレンスを行い利用者様の気持ちを汲み取りながらどういった最期を迎えていくか、ご家族との話し合いを行い職員も共有している	重度化、終末期に向けた指針があり利用契約時に説明し同意を頂いている。終末期に到った時には主治医を訪問し家族、医師、訪問看護師、管理者、ケアマネジャーで話し合い、医師より状態を聞き、家族の意向も聞き、医師の指示の下看取り支援に取り組んでいる。看取りのケアプランを作成した時点で全職員が対応について共有し、利用者と家族に寄り添うよう心掛けている。家族の希望で酸素吸入、点滴等も行い、面会にも工夫をしホームで家族と共にお見送りをしている。今年は3名の看取りを行い感謝の言葉を頂いている。また、看取り後には振り返りの時を持ち、次回に繋げるよう全職員気持ちを一つにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署に依頼し救命講習を受け、すべての職員が対応できるようにしている。 緊急時の対応マニュアルも用意しており、いざという時は備えている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導を受けたり施設内の避難訓練を実施し対策をとっている。 地域の防災訓練の参加も運営推進会議において情報をもらっている	年2回防災訓練を行っている。そのうち1回は消防署員参加の下行い、水消火器を使っての消火訓練、火元を特定しての避難訓練を全利用者が参加して行っている。合わせて地震想定、夜間想定の避難訓練も行い防災への意識を高めている。備蓄は「お米」「水」「缶詰め」「介護用品」「食料品」等3日分が準備されている。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の気が向かなかったり嫌だと感じる時には無理をせず、利用者様の気持ちを汲むようにしている。馴れ合いになってしまわぬよう声掛けなども工夫している	家庭的な雰囲気を大切に行動に制約を付けずに施設内何処にいても家庭のように自由に過ごしていただくよう心掛けている。呼び方は利用者、家族の希望も聞き、尊厳を守りながら親しみを込め、方言も交えながら「さん」付けでお呼びしている。入室の際にはノックと声掛けを忘れず居室でのプライバシー確保に努めている。また、接遇ついての本を回覧し意識を高めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の決めた事を押し付けるのではなく、利用者様の表情や反応からの気持ちを探り自分で決められる場面を作ってもらえるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合に合わせた生活にならないよう、利用者様のペースに合った生活が出来るよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様が出来る事はしてもらい、出来ないことは手伝わせて頂きながら気持ちよく過ごして頂くよう努めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の楽しみになるよう季節の食材や利用者様の好みを大切にしている。味付のアドバイスや食事の片付けにも参加してもらい食に対する意欲を引き出せるようにしている	食形態はきざみの方が多く、半数の方が介助を必要とする状況である。利用者個々の食形態をキッチンに貼りそれに合わせて調理している。献立は冷蔵庫の食材を見て利用者の希望も聞き調理している。週何回かは昼食のおかずのみ外より取り楽しんでいる。また、行事の際には近くのレストランより好きな物をテイクアウトしプロの味を味わっている。合わせて職員の中に元すし職人がおり行事の際には握り寿司等も楽しんでいる。地主さんの畑より年間を通し新鮮な野菜がふんだんに届き調理に役立てており感謝している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の飲み込み、咀嚼に合わせた食事形態を工夫し、水分を摂りにくい方にはスポーツ飲料をゼリーにするなど工夫して提供している		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの必要性を理解し、訪問歯科を利用している利用者様も多い為、ケア方法のアドバイスをもらいながら、同一のケアが出来るように努めている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表を使用し、排泄パターンの把握に努め、声掛けのタイミング、使用物品を工夫し、その方に合っ方法やペースで排泄ケアが出来るよう努めている	一部介助の方が三分の二弱、全介助の方が三分の一強という状況である。排泄管理表を参考に排尿、排便のパターンを掴み、早めのトイレ誘導を行いスムーズな排泄に繋げている。尿意を感じない利用者については起床時、食前食後、就寝前等、定時誘導を行いトイレでの排泄に繋げている。一日の水分摂取目標を1,300ccに置き、「お茶」「スポーツドリンク」「ジュース」「ゼリー」等の摂取に努め排便を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の及ぼす影響を理解した上で食事の工夫や水分摂取を促している。その方の整腸剤の処方等、医療面からの支援も行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが本人の体調、気分に配慮し時間、日をずらして入浴できるよう支援している。羞恥心にも配慮し気持ちよく入浴できるように努めている	全利用者が介助を必要としており、そのうち職員2人で介助する方が半数弱という状況である。入浴時には転倒リスクや安全確保のため畳が敷かれ、広い浴室は3方向から介助が出来る一般浴槽と特殊浴槽が備え付けられている。基本的には週2回入浴を行い、失禁や汗の状況で入浴とシャワー浴をプラスして行っている。入浴拒否の方もいるが何回もお誘いしたり、スタッフを変えたり、時間を変え対応している。季節により「リンゴ湯」「菖蒲湯」「ヒノキの湯」等も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のペースで好きな時に自由に休む事ができるようにしている。夜間も利用者様が眠くなったタイミングで休めるように支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服用している薬の内容を把握し状態に変化がないか注意している。また、誤薬、投薬もれがないか職員同士での確認を徹底している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の会話の中から得意な事、好きな事を探り日々の生活に取り入れている。誕生日には好きなメニューを決めて頂き、職員も一緒に楽しんでいる		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候に応じテラスでの外気浴、お茶、食事を楽しみ、ドライブ、花見も行っている。外出できない時期は食堂からメニューを取り寄せ利用者様に選んでもらいテイクアウトを楽しんでいる	外出時は若干名を除き、大半の方が車いす使用という状況である。新型コロナウィルス禍の状況であるがホーム内で楽しむ行事を計画し、利用者、職員一緒に楽しむことを基本に考え実施している。コロナ対策をしっかりと取ったうえで春のお花見はじめ車でのドライブに力を入れ、車内から外の雰囲気を味わえるようにしている。また、広いテラスに出て地主さんの畑を見ながら外気浴を兼ね「バーベキュー」を楽しんだり、10月にはキノコを中心に秋の味覚も楽しんでいる。更に、玄関前でお茶を楽しみ近所の子供達とのひと時も楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、個人でお金の管理をしている方はいないが、いつも持っているバッグの中に現金を入れている方もおり、手元にあることで安心に繋がっている方もいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の協力を得ながら、利用者様からの希望がある時は電話で話しが出来るように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾り付け、地主さんの畑の花を楽しみ、頂いた野菜で調理をし、季節感を感じて頂いている。トイレ、浴室は分かりやすく貼り紙をし混乱をまねかないよう工夫している	平屋造りの当ホームはユニット間の仕切りに工夫がされ行き来が自由に出来るようになっており、利用者同士の交流が盛んに行われている。ホールの窓からは地主さんの畑を見ることが出来、天気の良い日にはテラスに出て外気欲を楽しみ季節の移り変わりを目にしながら生活を送っている。壁には利用者の作品や日々の様子を映した写真が飾られ生活の様子を窺うことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	過ごしたい場所でくつろいで頂けるよう居室で過ごしたり、ホールで過ごしたりしている。時には隣りのユニットで気分転換をされる利用者様もいる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や家族の写真を飾ったり、使い慣れた家具を置いている。本人の部屋と分かるよう目印をつけている方もいる。居室が居心地の良い場所になるように努めている	利用者の家族と相談し、暮らしやく自由な生活の場を作っている。持ち込みは自由で使い慣れた家具、テレビ等が持ち込まれ壁には家族の写真、誕生日のお祝いカード、ホームから贈られた敬老会の感謝状等が飾られている。空調はエアコンで快適さが保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮し歩行の妨げになるものは置かない工夫をしている。トイレ、浴室にはわかりやすいように貼り紙を貼り、利用者様によっては居室に名前を貼り、分かりやすいよう工夫している		